



第23号

昭和59年10月1日

発行 者 群 馬 県 山 岳 連 盟
〒371 前橋市大手町1丁目1-1
TEL (0272)23-1111 内線519-520
群馬県庁観光課内
編 集 者 群 馬 岳 連 編 集 委 員 会
責任者 倅 田 正 也
印 刷 所 森 田 印 刷
定価 1部 100円

会長就任にあたって



群馬県山岳連盟会長

星 野 光

今春、本県協会の会長として、県民スポーツの振興と体力の向上に長年尽力してこられた、浜名先生が永眠されましたことは誠に痛恨の極みであります。

浜名先生には、伝統ある群馬県山岳連盟の会長として数々の業績を残されました。先生が岳連を日本屈指の団体に育成強化された最大の功労者でありますことは、今更云々するまでもなく衆目の一致するところであります。

さて今回はからずも浜名先生の後任として推挙を受けましたので一言御挨拶申し上げます。

本県は日本でも有数の名山に囲繞される、文字通りの山岳県であり、就中谷川岳は、我が国の三大ロックガーデンとして近代日本の名クライマーを多く育てて来た岳人のハイマートでもあります。

また、遭難事故が多発する魔の山として恐れられて参りました。近年地元や関係各位の御努力により、その汚名を返上しようとしており、県民の一人といたしましても喜びに耐えない次第であります。

最近とみに登山人口の増加に比例して自然破壊が激化し、自然保護の問題との両立がますます困難

な状況を呈して、県民、関係者のシレンマとなっており、人間は自然と共存共栄する以外に生きる道はないのでありますから、正しい登山のマナーを一層周知徹底させると共に、自然を愛し、この素晴らしい郷土群馬をいつくしむ立派な山岳人の育成のためにあらゆる努力を惜しまぬ所存でございます。

この度は、就任早々第三次ヒマラヤ遠征の総隊長として、この歴史的壮舉に参加することになりました。

合宿の停滞日
若人達との話し合いの中から

理事長

田 中 成 幸

先輩、私達は会に入ったばかりで、まだ、岳連という組織も内容も、よく判らないのですが、そうだね。まだ山に登ることに一生懸命で、組織のことは判らないだろう。一とおりのことを話そう。

現在、群馬県山岳連盟に加盟している団体は四十一団体なんだ。地域団体、たとえば前橋・高崎・桐生・伊勢崎など、その地域の人の集まりの山岳会と、クラブ団体とか。少しくわしく話してください。

昭和四十五年頃から、部会制形式になって来た。遭難対策部、指導部、海外登山研究部、国体部、編集部、自然保護部、それら全部をまとめる総務部から出来ている。遭難対策は、遭難の防止と救助活動を目的に、現在二十名の隊員で活動している。主に加盟団体の遭難の際、出動出来る体勢にある。隊員達は毎年選考され、夏、秋、冬などに、主に谷川岳などの現場で、訓練を行っている。救助法、搬出方法、岩場などの支点的とり方や、ワイヤーウインチの操作など、いろいろな基本的な技術を覚えられるから、若し君達は、是非一度隊員になって訓練に参加した方がよいと思う。遭難防止としては、各々が一番危険性の高い冬山に入る十二月に、冬山合宿検討会を、各会のリーダーを集めて行っている。これは、各会の計画に

したことは、誠に身に余る光栄であります。幸い逸材の隊員に恵まれて、全員協力のもとに登頂を成功させるべく微力を傾注する覚悟であります。

心から諸賢のあたたい御指導御鞭撻を懇願してやみません。終りに臨み、浜名先生をはじめ先般ヒマラヤ遠征において帰らざる人となられた、四名の岳友の霊に謹んで哀悼の誠を捧げ、御冥福を祈念し、御挨拶いたします。

また指導部会は、日山協の定めた指導員資格認定者（現在は一種二種、地区指導員）から出来ていて、雪上、岩登り、氷壁、雪上生活などの各講習会を行っている。これに参加すると、新しい技術が習得出来るよ。今年あたりは、フリークライミングのロックフェス

テニスをやって好評だった。また机上の講習会、天気図作成や読図、救助法などもやっている。みんなも経験があると思うけど、自分、選手も大変だと思ふ。登攀、縦走、踏査競技など三種目で競う。成年男子はフルエントリー、成年女子、少年男女は地区ブロック予選を通過しなければ出られないわけだ。そのためにもこの部門では早くから選手強化にあたらないといけないのだが、最近では、この県でも、国体の選手になりたがらないので困っているようだ。国体を行うということは、大変な準備期間と人員がかかるのだから、ただ国体に参加すればいいというものではない。日本山岳協会でも、この辺は大いに考えるべきである。また国体部では、選手強化や審判員の派遣も行っているし、来年は川場村でミニ国体（関東ブロック予選）を行うので、もうその準備がはじまっている。

編纂部から出されているのは「ねろ」ですね。時々見掛けただけです。各部会での活動や行事を岳連傘下の人達に判ってもらうのが、岳連会報「ねろ」の役目なんだ。常任理事会や理事会で、何が話合われているか、会員に知ってもらおうことが、役員を会員から浮き上らせたいために必要だと思ふ。そういう意味でも、議事録は必ずのせるべきではないか。岳連会報の編纂は大変な仕事だが、編纂部が頑張って、季毎に発行してほしい。

これからの山岳会や山岳連盟はどう進んでいくのでしょうか。今、どの山岳会でも、新会員の入会が非常に少ないと思ふ。たしかに登山人口は、一時期より減っ

そう、海登研では、一九七二年ダウラギリIV峰、一九七八年にはダウラギリI峰、そして今年は第三次の遠征、アンナプルナI峰、南壁を冬に行うことになった。これは岳連の継続事業で、前回までの遠征や、冬期遠征隊に参加した者の経験を踏まえて、今回の計画なんだ。岳連傘下の会でも、独自に海外登山を行ふ会が増えて来たし、またHAIや同人隊などに参加する人も増えて、海外登山経験者が非常に多くなり、実力もついてきた。今回の遠征隊の隊員は、全員が海外登山経験者であることから、この計画は非常に期待が持てると思ふんだ。みんなも海外登山をしたい時には、やはり経験者が沢山の海登研に入り、勉強したいらいいだろう。職場の休暇や制約などで、すぐあきらめなくて、高校の先生達だけの登山隊も出ていくくらいだから、行きたい人は努力しなさいと思ふ。

昨年のあかき国体も終ったし、国体部とはどんなことをするのですか。

五十八年あかき国体も終った。栃木国体より、山岳部門にも天皇杯、皇后杯に得点されるようになり、選手も大変だと思ふ。登攀、

縦走、踏査競技など三種目で競う。成年男子はフルエントリー、成年女子、少年男女は地区ブロック予選を通過しなければ出られないわけだ。そのためにもこの部門では早くから選手強化にあたらないといけないのだが、最近では、この県でも、国体の選手になりたがらないので困っているようだ。国体を行うということは、大変な準備期間と人員がかかるのだから、ただ国体に参加すればいいというものではない。日本山岳協会でも、この辺は大いに考えるべきである。また国体部では、選手強化や審判員の派遣も行っているし、来年は川場村でミニ国体（関東ブロック予選）を行うので、もうその準備がはじまっている。

編纂部から出されているのは「ねろ」ですね。時々見掛けただけです。各部会での活動や行事を岳連傘下の人達に判ってもらうのが、岳連会報「ねろ」の役目なんだ。常任理事会や理事会で、何が話合われているか、会員に知ってもらおうことが、役員を会員から浮き上らせたいために必要だと思ふ。そういう意味でも、議事録は必ずのせるべきではないか。岳連会報の編纂は大変な仕事だが、編纂部が頑張って、季毎に発行してほしい。

これからの山岳会や山岳連盟はどう進んでいくのでしょうか。今、どの山岳会でも、新会員の入会が非常に少ないと思ふ。たしかに登山人口は、一時期より減っ

そう、海登研では、一九七二年ダウラギリIV峰、一九七八年にはダウラギリI峰、そして今年は第三次の遠征、アンナプルナI峰、南壁を冬に行うことになった。これは岳連の継続事業で、前回までの遠征や、冬期遠征隊に参加した者の経験を踏まえて、今回の計画なんだ。岳連傘下の会でも、独自に海外登山を行ふ会が増えて来たし、またHAIや同人隊などに参加する人も増えて、海外登山経験者が非常に多くなり、実力もついてきた。今回の遠征隊の隊員は、全員が海外登山経験者であることから、この計画は非常に期待が持てると思ふんだ。みんなも海外登山をしたい時には、やはり経験者が沢山の海登研に入り、勉強したいらいいだろう。職場の休暇や制約などで、すぐあきらめなくて、高校の先生達だけの登山隊も出ていくくらいだから、行きたい人は努力しなさいと思ふ。

昨年のあかき国体も終ったし、国体部とはどんなことをするのですか。

五十八年あかき国体も終った。栃木国体より、山岳部門にも天皇杯、皇后杯に得点されるようになり、選手も大変だと思ふ。登攀、

縦走、踏査競技など三種目で競う。成年男子はフルエントリー、成年女子、少年男女は地区ブロック予選を通過しなければ出られないわけだ。そのためにもこの部門では早くから選手強化にあたらないといけないのだが、最近では、この県でも、国体の選手になりたがらないので困っているようだ。国体を行うということは、大変な準備期間と人員がかかるのだから、ただ国体に参加すればいいというものではない。日本山岳協会でも、この辺は大いに考えるべきである。また国体部では、選手強化や審判員の派遣も行っているし、来年は川場村でミニ国体（関東ブロック予選）を行うので、もうその準備がはじまっている。

編纂部から出されているのは「ねろ」ですね。時々見掛けただけです。各部会での活動や行事を岳連傘下の人達に判ってもらうのが、岳連会報「ねろ」の役目なんだ。常任理事会や理事会で、何が話合われているか、会員に知ってもらおうことが、役員を会員から浮き上らせたいために必要だと思ふ。そういう意味でも、議事録は必ずのせるべきではないか。岳連会報の編纂は大変な仕事だが、編纂部が頑張って、季毎に発行してほしい。

これからの山岳会や山岳連盟はどう進んでいくのでしょうか。今、どの山岳会でも、新会員の入会が非常に少ないと思ふ。たしかに登山人口は、一時期より減っ

縦走、踏査競技など三種目で競う。成年男子はフルエントリー、成年女子、少年男女は地区ブロック予選を通過しなければ出られないわけだ。そのためにもこの部門では早くから選手強化にあたらないといけないのだが、最近では、この県でも、国体の選手になりたがらないので困っているようだ。国体を行うということは、大変な準備期間と人員がかかるのだから、ただ国体に参加すればいいというものではない。日本山岳協会でも、この辺は大いに考えるべきである。また国体部では、選手強化や審判員の派遣も行っているし、来年は川場村でミニ国体（関東ブロック予選）を行うので、もうその準備がはじまっている。

編纂部から出されているのは「ねろ」ですね。時々見掛けただけです。各部会での活動や行事を岳連傘下の人達に判ってもらうのが、岳連会報「ねろ」の役目なんだ。常任理事会や理事会で、何が話合われているか、会員に知ってもらおうことが、役員を会員から浮き上らせたいために必要だと思ふ。そういう意味でも、議事録は必ずのせるべきではないか。岳連会報の編纂は大変な仕事だが、編纂部が頑張って、季毎に発行してほしい。

これからの山岳会や山岳連盟はどう進んでいくのでしょうか。今、どの山岳会でも、新会員の入会が非常に少ないと思ふ。たしかに登山人口は、一時期より減っ

縦走、踏査競技など三種目で競う。成年男子はフルエントリー、成年女子、少年男女は地区ブロック予選を通過しなければ出られないわけだ。そのためにもこの部門では早くから選手強化にあたらないといけないのだが、最近では、この県でも、国体の選手になりたがらないので困っているようだ。国体を行うということは、大変な準備期間と人員がかかるのだから、ただ国体に参加すればいいというものではない。日本山岳協会でも、この辺は大いに考えるべきである。また国体部では、選手強化や審判員の派遣も行っているし、来年は川場村でミニ国体（関東ブロック予選）を行うので、もうその準備がはじまっている。

編纂部から出されているのは「ねろ」ですね。時々見掛けただけです。各部会での活動や行事を岳連傘下の人達に判ってもらうのが、岳連会報「ねろ」の役目なんだ。常任理事会や理事会で、何が話合われているか、会員に知ってもらおうことが、役員を会員から浮き上らせたいために必要だと思ふ。そういう意味でも、議事録は必ずのせるべきではないか。岳連会報の編纂は大変な仕事だが、編纂部が頑張って、季毎に発行してほしい。

これからの山岳会や山岳連盟はどう進んでいくのでしょうか。今、どの山岳会でも、新会員の入会が非常に少ないと思ふ。たしかに登山人口は、一時期より減っ

ている。しかし、内容の濃い山岳の現状なんだ。岳連は、そういう会は、かえって増えつつあるのではない。今は登山の多様化により、ヒマヤ志向、ハードクライミング、溪流溯行、山スキーなど登山者自体も以前とは変った。登山者の中に、自然保護運動の行いが深くなってきたんだ。やへり、それらを率先して受け入れ、部会制も十五年経つと、部会間の協力関係が薄れてきているように見られる。みんながもっと協力しあつたら、どの部会も活動し易くなるのではない。現状でマンネリ化して、自分の課せられた部会活動のみに、目をむけていようだが、これからは、岳連は新しいといわれる登山の中でも進んで行きたいと思つた。

——外は雨がはげしく降り出した。——

理事会報告

期日 昭和五十九年七月四日(水) 三、尾瀬美化運動「ゴミひろい」

出席者 石井・吉田・羽野・月岡 七月二八日一三時観光課へ集合

田中・大沢・富山・竹山・笠原 四、七月二一・二四日 水上町で

西山・須田・宮崎・長谷川・女 開かれる全国遭難対策協議会へ

屋・水野・寺内・松本・大井・ 県岳連から事例発表、分科会助、

太田・加藤・樋口・石川・八木 言者として参加する。

原 役員改選

一、第三回全日本登山体育大会

参加の件、九月二一・二四日、

高知県山岳連盟が主催、参加希

望者は七月二〇日までに事務局

へ連絡する。

二、七月一日の谷川岳山開きに参

加する。

臨時

臨時

臨時

編集部

羽野順一(境)

太田忠行(独峰)

水野金太郎(沼田)

竹山繁男(独峰)

大沢 清(高体連)

樋口宗平(桐生)

女屋等志(ミヤマ)

指導員会

高田政美(沖電気)

下平昌弘(倉瀬)

村上泰賢(高体連)

原田惣司(倉瀬)

竹山繁男(独峰)

遭対部

西山千秋(沼田)

加藤藤夫(富士重)

長谷川勇(中之条)

須田栄一(むすび)

海外登山部

八木原園明(ミヤマ)

宮崎 勉(ミヤマ)

石川 忍(桐生)

自然保護部

富山 真(太田)

笠原伊勢雄(前橋)

常任理事会報告

期日 昭和五十九年八月八日(水)

出席者 田中・羽野・大沢・富山

竹山・笠原・須田・宮崎・女屋

長谷川・水野・寺内・大井・八

木原・下平・倅田・原田・高田

小林・川辺(藤沼)

臨時

臨時

臨時

臨時

臨時

臨時

臨時

臨時

事務局

吉田茂作(観光課)

局長 女屋等志(ミヤマ)

局員 女屋等志(ミヤマ)

各部の抱負

総務部 今後の常任理事会、理

事会等の諸会議における議事

録を作成する。

編集部 総会や本日の結果など

も含めて早急に発刊する。理

事会等の報告も極力、記事に

したい。

国体部 来年、川場村で関東地

区大会を主催する。

指導員会 八月二日に気象講

習会を行う。

遭対部 谷川岳・ノ倉沢テール

リッジからヒョングリの滝ま

で、固定アンカーを設置した

い。

海外登山部 冬期アンナブルナ

登山の実行委員会を、隊員を

含めて早急に発足したい。理

事会の承認をうける。

臨時

臨時

臨時

臨時

臨時

臨時

臨時

臨時

臨時

臨時

臨時

臨時

臨時

臨時

臨時

臨時

臨時

少年男子 一位山梨、二位神奈川

(以上国体出場) 三位栃木、五

位群馬

成年女子 一位茨城、二位山梨

(以上国体出場) 三位栃木

男女女子は、天図園得点、踏査

の時間得点、登攀の時間得点が他

県より悪いので今後の強化を図

ていきたい。

少年の部男子は縦走の時間得点、

踏査の読図点、観察点が悪かった。

阿久沢・佐藤・清水。大間々山岳

会。阿部。桐生山岳会。武田・木

村。太田山岳会。鈴木。

準備経過としては、県へ補助金

と後援の申請をした。また、会長

は県関係、上毛新聞社へ挨拶に廻

った。広報と資金カンパのTシャ

ツを三枚作ったので御協力をお

願いします。色は白、黒、濃紺、

エンジ、アイボリー、サックスの

六色でサイズはSとM。一枚千

円だが、高校生以下は千五百円。

実行委員会役員

委員長 星野 光

副委員長 中島喜代志

委員 小林三雄

石井謙一郎

田中 成幸

総務部長 太田 忠行

渉外部長 星野 光

記録部長 八木原園明

財政部長 川辺 柳一

研究部長 富山 真

自然保護部 八木原園明

その他 川辺、藤沼氏から岳連

三、第四十四回国体関東地区大会

国体実行委員会の設計報告があり

ました。

二、第三次ヒマヤ登山について

場所は川場村・三つ峠。縦走コ

海外登山部 七月三十日(月)

十九時三十分から体協会館で第一

回実行委員会を開催した。八月四

日(土)に隊員募集締め切り、

十三人の応募があり、全員決定し

た。次回実行委員会(八月二七

日)で正式決定の予定。

応募者 沼田山岳会 山田・松

永・三枝。前橋山岳会 名塚。群

る岩登の競技会に群馬県から昨年

の国体選手の中から一人派遣要請

があったが、選手の都合がつかず

派遣せず。

九月十日から十九日の十日間、個

人負担十五万円でその他経費は日

山協。

B 谷川岳南面の地質の学説が

変わる。

谷川岳について四年間調査した

結果、谷川岳の南面は中生層(七

千万年一億八千万年前)ではな

く、第三系(二千万年前)だとい

うことがはっきりした。今まで本

に中生層と書かれていたことが、

間違っていたことを報告します。

また、西黒尾根の水河遺跡も水

河ではなく、雪によるものであり

今後訂正していく。

来年は赤谷川源頭を調査します。

(本林副会長)

C 各岳連で指導員の老齢化と

国体の開催に伴う、指導員、審判

員の増員が、終了後問題を残して

いる。今後の課題である。

(高橋)

臨時

臨時

臨時

臨時

臨時

臨時



新たな発展を期して

五八年度岳連総会

六月一七日(日)、一四時から県民会館で五九年度岳連総会が開催された。あかぎ国体後の新たなスタートでの発展を期し、また浜名前会長なきあとの役員改選を含めて活発な議事の検討が行われた。

新役員体制

会長 星野 光(沼田)

副会長 中島喜代志(水上)

小林三雄(松井田)

石井謙一郎(伊勢崎)

北村 登男(沖電気)

堀江登志夫(伊勢崎)

五八年度事業報告

一、避難防止・救助訓練

救助隊を中心とした救助訓練を行い、救助技術の向上、隊員間のチームワーク養成など成果がみられた。

五九年度事業計画

一、避難防止活動

谷川岳を中心とした地域の避難防止のためのパトロールの実施と

強化：救助活動および救助隊の技術の向上のための訓練を実施する。

三、団体への参加と選手強化

第三九回わかさ国体(奈良)

への参加と選手強化を一層推進し

先達県としての好成績を目標とする。さらに今後の国体に向つて、

長期的、計画的な選手強化や団体対策が必要である。

三、日山協主催行事への参加と香

尾瀬 七、三〇・三十一

谷川岳七、三(安全登山の日)

三、美化運動の実施

尾瀬 七、三〇・三十一

会の交流

日本山岳協会の主催する諸行事に積極的に参加するとともに、各山岳会との交流を一層深め、研修会、講習会等を通じて、技術の向上、岳人としてのモラルの高揚を図る。

四、美化運動等市民運動への参加

自然保護や環境保全についての心がまえを養い、それを美化運動等の市民運動を通して実践出来るよう努める。

五、岳連報の発行

あかぎ国体等で多忙なため発行が二号で停っていた岳連報(嶺呂(わろ))を再刊し、情報の提供、意見発表等を通して、会員の結びつきと啓蒙を計り、合せて資料価値のあるものを旨とする。発行は、七、一〇、一月の年三回とし、各会を通して、会員各位に配布する。

六、海外登山

第三次群馬ヒマラヤ登山隊(冬季アンナブルナエ峰南壁)の派遣と支援を強力に推進する。

七、雪期講習会・講習会の開催

県山岳連盟および各部毎に主催する諸々の研修会・講習会を年間計画の中に(位置)づけていく。

八、その他

水上町で行われる五九年度全国山岳連対策協議会へ積極的に参加する。

大きな行事であったあかぎ国体も、無事終了した。新しい役員体制も誕生し、本来の岳連活動を皆の協力で押し進め、その活動に新しい風が吹き込むことと思う。

昭和59年度行事予定表

体	国	外	海	指 導 員	対 遭	務 総
県内子選 赤城(14-15) 榛名(22)		総会		総会(25)	新隊員訓練(22) 秩父双子山	4 常任理事会(11) 黒岩清掃美化(22)
				雪上技術講習会(27) マチガ沢	春期救助訓練(20) 秩父双子山	5 常任理事会(9)
				岩登技術講習会(10) 黒岩		6 理事会・総会(17) 県民会館
関東ブロック大会(22-22) 山梨県御坂山系		岳連海外登山技術研究会			夏期救助訓練(1) 谷川岳一ノ倉沢 全国遭対協(12-13)水上	7 谷川岳安全登山の日(1) 常任理事会(11) 尾瀬グミ持ち帰り(23)
				気象講習会(22) 前橋		8 常任理事会(8)
		日山協海外遭対研究会		岩登り競技会(9) 川場赤沢南壁		9 理事会(12)
第39回国体(12-17) 奈良県大峰大台ヶ原山系		冬期アンナブルナ南壁隊 出発			秋期救助訓練(14) 谷川岳一ノ倉沢	10 常任理事会(3)
				指導員研修会(10-11) 榛名山		11 常任理事会(14)
		第23回日山協海外登山技 術研究会			冬山合宿検討会	12 理事会(12)
					冬山合宿報告会	1 常任理事会(9)
				氷壁技術講習会(3) 松木沢		2 常任理事会(13)
		積雪期生活技術講習会(3) 谷川岳天神平			冬期救助訓練 谷川岳一ノ倉沢	3 理事会(13)

あかぎ国体

山岳競技会報告

永い準備期間を経て開催された国体山岳競技会も、会員の皆さんの協力を得て無事終ることが出来ました。

すでにご承知のことと思いますが報告させて頂きます。

大会は片品村・川場村・水上町にまたがる「武尊・尾瀬山系」に於いて、十月十六日から十九日までの四日間、競技が行われ、前後に、開始式と開会式及び表彰式が行なわれて七日間にわたる大

注目を集めた、登攀競技は、川場村の赤沢南壁で実施された。

会が挙行されました。

会場は、縦走競技が、上ノ原から武尊山、また川場の桜川からの武尊山湯ノ小屋から宝川、笠ヶ岳山ノ鼻から至伝山、大清水から尾瀬沼を経て富士見峠等の五コース、踏査競技が、東小川から沼上山を巡るコースと、武尊オリンピアスキー場より、前武尊を巡るコースが行なわれました。

この大会に協力された、岳連会員は、競技役員として、二五三名(奥利根山岳会員を含む)その他、監督、コーチ、高校生の競技補助員等の入達が、四十名と合計数では、三百名に近い入達が参加した。コーチ選定段階での、自然保護団体の反対運動。また七月末の集中豪雨による、道路及び競技コースの破損等、心配されたことも有りましたが、関係者の努力によって解決され、大会中は大きなトラブルもなく一応の成功を収めることが出来ました。

山岳競技に於ける群馬チームの成績は、成男一位、成女一位、少男二位、少女一位となり、総合では、男女それぞれ優勝することが出来ました。

代表選手氏名

成年男子

監督 高田政美(群馬登高会)
選手 大山洋次(境町山の会)

壁 伸明(桐生山岳会)

土屋邦夫(群馬登高会)

成年女子

監督 松島宗一(前橋山岳会)
選手 森下 緑(桐生山岳会)

木村文江()

下田美和子()

少年男子

監督 相沢好雄(伊勢崎工業高)
選手 高橋武行()

塚越浩司()

後藤文明()

少年女子

監督 白石信三(前橋市立女高)

宇野木一恵(伊勢崎女高)

下山幸江(富岡東高)

須永ゆかり(伊勢崎女高)

(文責 川辺柳一)

苦しみから喜びへ
—選手の声—

◎わたしは国体を通じて、沢山の人と出会い、尾瀬と武尊の大自然に触れることが出来ました。この一年間で、わたしはずいぶん成長したと思います。今まで応援し、支えてくれた人たち、どうもありがとうございました。あの激しく厳しかった日々は、私の青春だったのでしょうか。(S)

◎私たちが最初に尾瀬に足を踏み入れたのは、一年生の秋。今から二年前ですが、雨のあとで、空もくもっていました。所が一年前に来たときは、秋晴れのよい日で、その時見た景色はすばらしく、それ以来、頭の片スミには、いつも武尊の自然がありました。まだ残雪のある初春。そして緑芽はえる春。新緑の夏、紅葉の秋と、どの季節をとっても、ほんとうに味い深く、あの苦しいトレーニングが続けられたのは、この自然があったおかげかも知れません。(T)

◎いよいよ競技が開始されました。まず手はじめの設置競技は、小雨の降る中、地面がやわらかくて親網が張れず、出来上りは今にも倒れそうでした。縦走のスタート。設置の失敗を忘れて頑張ろうと思ったのですが、やはり優勝を意識して緊張でカチカチでした。出発

するまでの間、ただただ不安で、わけもなく屈伸運動をしていた。もし途中でバテたら、その事で一ぱいでした。始めの十分位とても辛く、いつまでたってもぜいせい、はあはあ、苦しくて足も上りませんでした。……………あ

かき国体が終わるまで、いろんなことで悩んだり、考えたり、笑ったり、それらはもう二度と経験することのない貴重な体験でした。(S)

◎地元国体を意識してのトレーニングは一年の秋からはじまった。……………だんだんと練習量が増え、標高差は六〇〇m、ザックは35kgを超えるようになった。山以外のトレーニングは、25kgのザックを背負い、五〜七キロ、ひどい時は一〇キロ以上のマラソン。これが一番つらかった。それに二〇〇mトラックで一五〇mのダッシュと五〇mのジョグを三〇周などなど、今思えば、これらがみんななつかしい。(T)

◎表彰式、ほっとした朝だった。自分にとって、人生の大きなステップになった。天下を取れなかったが、他の人に味えない体験は、自分の最大の宝になった。(C)



昭和58年度収支決算書

(収入の部)		(単位円)	
科 目	子 算 額	補 正	収入済額
繰 越 金	353,133	0	353,133
会 費	530,000	△ 123,400	406,600
未 収 金	120,000	△ 72,000	48,000
交付金・補助金	4,476,000	2,130,354	6,606,354
寄 付 金	5,000	△ 5,000	0
雑 収 入	35,867	228,102	263,969
計	5,520,000	2,158,056	7,678,056

(支出の部)		(単位円)	
科 目	子 算 額	補 正	支出済額
事 業 費	4,974,000	1,847,794	6,821,794
会 議 費	70,000	△ 36,830	33,170
会 務 費	55,000	△ 35,000	20,000
旅 費	80,000	△ 68,960	11,040
負担金	153,000	△ 4,000	149,000
予 備 費	188,000	30,680	218,680
計	5,520,000	1,733,684	7,253,684

昭和59年度予算

(収入の部)		(単位円)	
科 目	子 算 額	前年度子算額	比較増減
繰 越 金	388,772	353,133	35,639
会 費	530,000	530,000	0
未 収 金	208,000	120,000	88,000
交付金・補助金	2,909,000	4,476,000	△ 1,567,000
寄 付 金	5,000	5,000	0
雑 収 入	59,228	35,867	23,361
計	4,100,000	5,520,000	△ 1,420,000

(支出の部)		(単位円)	
科 目	子 算 額	前年度子算額	比較増減
事 業 費	3,402,000	4,974,000	△ 1,572,000
会 議 費	70,000	70,000	0
会 務 費	55,000	55,000	0
旅 費	80,000	80,000	0
負担金	149,000	153,000	△ 4,000
予 備 費	344,000	188,000	66,000
計	4,100,000	5,520,000	△ 1,420,000

厳冬のアンナプルナ峰 南壁をめとして

登山隊長 八木 原 園 明

私共群馬県山岳連盟はこれまで 四氏を失ない、一九八〇年春には一九七一年春にタウラギリIV峰 チョモランマ北壁において宇部明(の偵察隊、一九七二年春に本隊 氏がアタックキャンプ入りする際 一九七七年秋にタウラギリI峰へ 雪崩により墜死するという大打 の偵察の後、翌一九七八年秋にタウラギリI峰南東稜へと二度のヒ マラヤ登山隊を派遣いたして参り

ました。 会独自のヒマラヤ登山が多数実行 された、岳連員が県外登山隊 の中心メンバーとして参加、活躍

東峻では登頂はしたものの海外登 山研究会の中心であった小暮勝義 た。海外登山研究会ではその間に 阿久沢廣、深沢勇二郎、小林清の も一九八三年の「あき国体」後



の「第三次」を模索し、目標を、八エベレストの冬期、南北両サイドから同時登頂の目標の中、
「ルート」と定めたが、特に 宮崎がネパール側の副隊長、山田が登攀隊長、鈴木が隊員として参加し、山田が登頂を果たし、北のチョモランマ側には三枝照雄も参加して参りました。

これら三つの八〇〇〇峰の冬期登山隊への参加は全て、このた びの本群馬岳連による「厳冬」の 期登山隊への参加は全て、このた びの本群馬岳連による「厳冬」の

一九八二年秋、本岳連員九名 が参加したカモシカ山によるタウラギリI峰北壁、ペールルート の初登攀に成功した帰路のキヤラバン中、いくつかの候補の山とルートの 中から、ターゲットを「ア

ンナプルナI峰南壁のイギリスル ート」と定め、ネパール政府観光 省に対し、仮申請をいたしました。 八〇〇〇峰の冬期南壁登山ど

ころか、冬期のヒマラヤ登山の経 験がなかった私共ですが、タウラギリ・ペールルート登山に引き 続く一九八二年冬期には山田昇が 日本ヒマラヤ協会によるマナスル

(八一九八) 隊の隊長として参 加し、イエティ山によるエベレ スト(サガルマータ) 隊には宮崎 勉と鈴木繁が参加いたしました。

エベレストでは加藤保男隊長と 小林利明隊員が下山途次のヒヴァーク中に強風によると思われる事 故により行方不明になってしまっ たことは、いまだ記憶に新しいと ころであります。

翌一九八三年秋にはカモシカ山 人による高所順応のためのローツ エ(八五一一) 登頂、引き続く

ツ担当国務大臣にもなった当時、 三十一才のモリス・エルゾグ 隊長はその登山記を「THE ABC OF BRUNNEN」(アンナプルナ 最 初の八〇〇〇) 邦訳「処女峰 アンナプルナ」を著した。

この本は帰国後、パリの病院で 凍傷治療のための八回の手術の合 間に当時の惨状を回想し、涙 にむせびながら六ヶ月がかりで口 述筆記されたものである。「処女 峰アンナプルナ」を読んだ誰もが、

「アンナプルナ」を読んだ誰もが、 身全霊をこの難壁にぶつけ、秋共 の持てる力、経験の全てを出し尽 して参るつもりであります。全 隊員が海外登山の経験者でありま

すが経験の度合、質には差がある のも事実であります。それは個々 の登攀、頂上に対する意欲がババ ーし、不足の部分はチームワーク による相乗効果で補つて参りま

す。 隊長を務めます私自身にも、右 すべきか、左すべきかの場面、引 くか攻めるかの場面でいかに冷静 冷酷な判断、決断が下せるか否か が厳しく求められるであろうと今 から真剣に受けてお参ります。

ヒマラヤ登山は海外登山研究会 員だけでなく、登山隊員だけでも実 行することは出来ません。岳連会

員の皆様の強い御支援、御協力を お願い申し上げます。 以下、計画の概要と隊員を御紹 介申し上げます。

(日程) 十月二〇日(出) 先発隊日本出発 十月二七日(出) 本隊日本出発

二十八日(出) 本隊の首都 カトマンズ着。 カラ(バマ) 十一月六日(出) キヤラバン開始 十一月十二日(出) 高所順応トレ ーニング 十三日(出) 登山活動(五〇 日間を予定)

一月二〇日(日) カトマンズ帰着 一月三二日(日) 日本帰国 (隊の構成)

総隊長 星野 光(51) 沼田 隊 長 八木原園明(37) ミヤマ 副隊長 宮崎 勉(36) 登攀隊長 山田 昇(34) 沼田 隊 員 松永 幸雄(36) 阿部 源(31) 大間々 名塚 秀二(29) 前橋 清水 茂(29) 太田 芳政(28) 桐生 武田 文江(28) 阿久沢芳雄(27) 三枝 照雄(26) 沼田 佐藤 光由(23) ミヤマ 福島 光男(35) 沖電気

医 師 未定 日本側以上十六名

リエンソフイサー サーター(シエルパ頭) 一名 シエルパ 七名 コック 一名 キッチンボーイ 二名 メイランナー 一名

ネパール側以上十三名

第二回山岳遭難救助会

9月9日、時々小雨が降るなか
を25名が参加して、第2回の岩登り
フェスティバルが開かれた。この
大会は、今まで4回行なわれた岩
登り競技会を、もっと楽しく多く
の岳人が参加できるようにと名を
改めたもので、前日夜、高崎駅に
集合して小川山、廻り目平にある
金峰山荘へ宿泊した。

ルートは前日、藤岡山岳会新井
尚夫、利之両名によって設定され
た。場所は島帽子沢左岩稜の末端
にあるマラ岩附近である。グレー
ドは5・9でジャミングを主体とし
たルート(カサブランカ・タツ
ノコ太郎)および5・10のスラ
ップ(J.E.C.C.ルート)である。
小雨で岩が濡れているためスラ
ップはもうひとつランクが上り、ス
ラップは登攀不可能としてタイム
トライアルは中止にした。



ルドもスタンスも無いような登攀
に皆、音を立てている。結局は誰
れも登れなかった。

デモンストレーターは、とても簡単
に登っているのに、易しく見える
が、いざ登り出してみると手も足も
なく記念品が渡された。ルート設
定者からは今日のルートは小川山
の入門ルートであり、また地元でのル
ーを開拓を望むとのことであった。
参加団体名(指導員研修含む)
ミヤマ4名、桐生6名、藤岡2名
登高会4名、倉瀬3名、沼田3名
雪氷1名、その他2名
ルート設定2名(藤岡)

全国遭難対協

昭和五十九年度の全国山岳遭難対
策協議会が去る七月十二・十三日
と二日間、巨り、水上町の水上館
で開催された。

「登山による遭難事故を防止す
るため、山岳関係者や山岳遭難対
策関係者の参加を求め、山岳遭難
の原因等について研究協議し、今
後の遭難対策の具体的施策に役立
てる。」という趣旨で、各県行政担
当職員、遭難救助組織、山小屋、
山案内人関係者の代表および高校
高専、大学山岳部の指導者等が参
加対象者であった。

山の多様化にともなう遭難救助に
ついて、が西山年秋、加藤藤夫両
氏、第二分科会「遭難事故発生後
の対応の在り方について」が中島
喜代志・新井邦光両氏、第三分科
会「学校登山及び社会教育活動と
しての集団登山の現状と問題点に
ついて」が村上泰賢・岡安茂能・
大沢 清の三名が各分科会のそれ
ぞれ助言者として研究協議に参加
し、今後の遭難対策に活かされる
ことであらう。

第三九回国体 関東地区大会報告

七月二十日から二日に山梨県
河口湖町、足和田村の御坂山系を
舞台に、奈良国体本番への出場権
を競いました。奈良国体への関東
地区割当数は、成年女子三チーム、
少年男子二チーム、少年女子二チ
ームで本県からは成年女子と少年
男子チームがエントリーし、成年
女子チームが三位となり通過しま
した。奈良国体へはストレート参
加の成年男子チームと二種別で、
本番の成績を期待したいと思いま
す。

総合成績
成年女子 一位神奈川(縦走8
2・82点踏査54・61点登攀
94・60点総合得点232・0
3点) 二位山梨(縦走71・9
6点踏査54・06点登攀100
点総合得点226・02点) 三
位群馬(縦走71・35点踏査4
5・31点登攀64・17点総合
得点180・83点) 四位栃木

総合得点14点、五位東京、総
合得点5点
少年男子 一位山梨、縦走95
・63点踏査91点総合得点18
6・63点) 二位神奈川(縦走
91・85点踏査91・86点總
合得点183・71点) 三位枳
木 総合得点180・72点、四
位茨城 総合得点175・33点
五位群馬(縦走85・01点踏査
84点総合得点169・01点)
六位千葉 総合得点168・16
点、七位 東京 総合得点158
・26点、八位埼玉 総合得点1
57・17点

少年女子 一位茨城(縦走84
・79点踏査85・83点総合得
点169・82点) 二位山梨(縦
走85・19点踏査79・28点
総合得点164・47点) 三位
栃木 総合得点156・18点、
四位神奈川 総合得点131・7
8点、五位千葉 総合得点111
・07点
群馬県選手団
成年女子 ▽監督 幾原充夫
(沼田) ▽選手 下田美和子(桐
生) 三好喜代美(女子雪氷) 山田
真由美(沼田) 少年男子 ▽監
督 田島正孝(伊勢崎東) ▽選手
神沢信行(伊勢崎東) 松崎宣行
吉田泰幸(以上伊勢崎工業)
競技日程及びコース
七月二十日 監督会議、開会式
七月二日

成年女子 登攀(十二ヶ岳)し
岩 踏査(毛無山、淵坂峠周辺)
少年男子 縦走(御坂峠・黒
岳・新道峠・大石)

天気図講習会

八月二十日、体協会館で行な
われた、天気図講習会は、右記の
要領で行なわれた。

- 一、講師 白石信三 先生
 - 二、参加者 一五名
 - 三、講習内容
- (1) 天気図を書くのに必要な基
本的知識
イ 天気通報の放送時刻につい
て(9・10・9・25、16、
00・16・20、22・00・22、
20) NHK II
ロ 放送される内容について
(天気概況、各地の天気、
船舶からの報告、漁業気象、
ハ 天気図の記号と記入の方法
について
(風向、風力、天気、気圧、
気温)
ニ 等圧線について
(鉛筆で記入する)
ホ 前線の記号と種類について
(低気圧・高気圧・台風等の
記号(L・H・T等)
テ プを使った訓練
イ 天気図用紙は二種類あるが
直接書き込む方式の「二号」
用紙で訓練したほうが良い。
50枚程度、書き込む練習を
すれば、スムーズに書ける
ようになると思う。

七月三日
成年女子 縦走(御坂峠・黒岳
・新道峠・大石)
少年男子 踏査(毛無山、淵
坂峠周辺)

今回の講習では、全く書く
ことの出来ない人も居たが
最後には、熱心な質問等に
よる成果で、書き込むこと
が出来た様になった。

四、その他
各会に呼びかけをして実施した
のですが、参加者が少なく、次回
には多数の参加者が得られるこ
と期待致します。

(文責 竹山繁男)
書くことの不得手な、また大き
らいな者が編集のお手伝いをする
なぞ、大それたことを永々とおく
面もなく続けているが、岳達の知
能を代表することにもなりかねない
大事な仕事を、部長の指導を得
ながら協力することになりました。
当面は、複刊することの意義を目
的に頑張る所存です。(K)

編集の仕事がこれ程大変な仕事
とは思ひもよらなかった。編集方
針を決め、原稿依頼、原稿の請求
(この段階が一番の難関)、集ま
った原稿の校正、割付け(パスル
と同じ余った原稿は、ズバズバ切
り捨てる)、グラの校正(この時
点で写真の選定とサイズカット)
完成した「領品」の配布等順調に
進められて当りまえ、今夜も遅い
帰りとなった。(H)
あかき団体が終って、虚脱の期
間もすぎた。新しい岳達活動の一
つとして、このミニコミ紙が、三
号・五号と続くことを念じた
い。交流の場として、また資料と
しての価値あるものとしての存在
感を強める紙面にしたい。皆さん
の大きな協力がささえて。(K)